

■Ⅲ 棚割分析1 ～スペースの有効活用を考える分析機能～

棚POWERの分析機能は、陳列スペースを有効活用して効果的な棚割モデルを考えるための分析や、カットや追加商品の選定といった品揃えを検討する場合に活用できる分析など、様々あります。

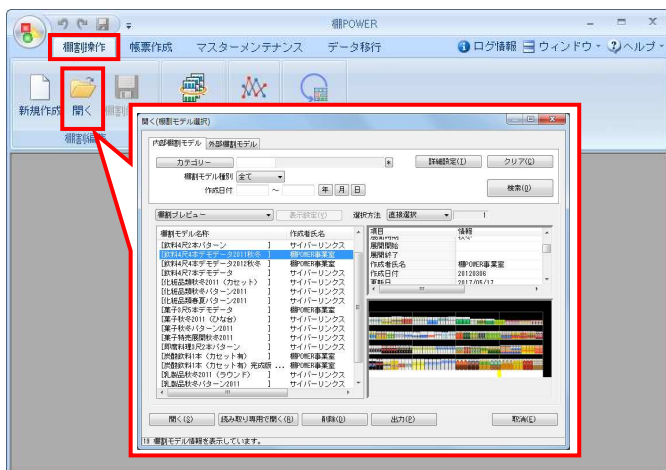
たとえば、「ハイライト」では陳列している商品を売上金額や数量別に色分けして陳列スペースと売上のバランスを確認すると同時に、品揃え分析として活用できる機能も搭載しています。

ここでは、主に「陳列スペースを有効活用するための分析」に焦点を当ててどんな分析機能が活用できるかを説明していきます。

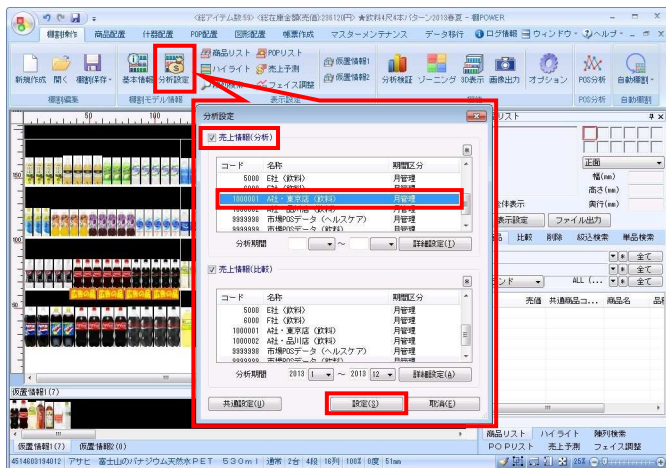
■ハイライト分析

ハイライト分析は、棚割編集画面上で陳列商品を分類や売上情報によって色分けして「見える化」する機能です。

棚割編集画面上で棚割モデルに陳列されている商品を品種ごとや売上金額別、ABC分析結果別に色分け表示してゾーニングの乱れを確認したり、陳列スペースと売上数量、粗利額などとバランスを比較し、売上貢献度に応じて陳列ボリュームをとれているかなどの確認をすることができます。

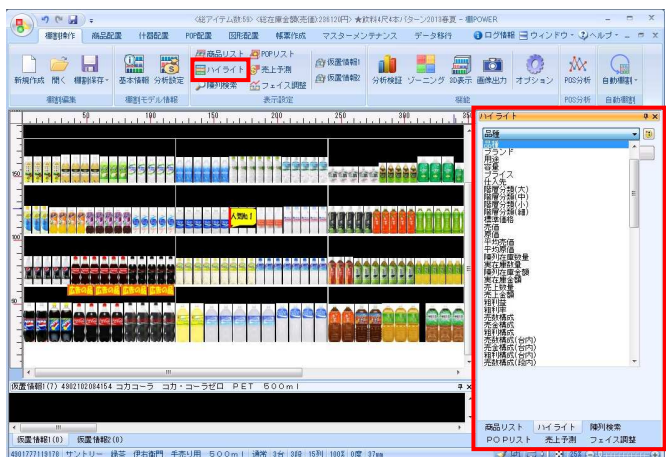


1. 「棚割操作」－「開く」より、分析したいモデルを選択し、棚割編集画面を開きます。



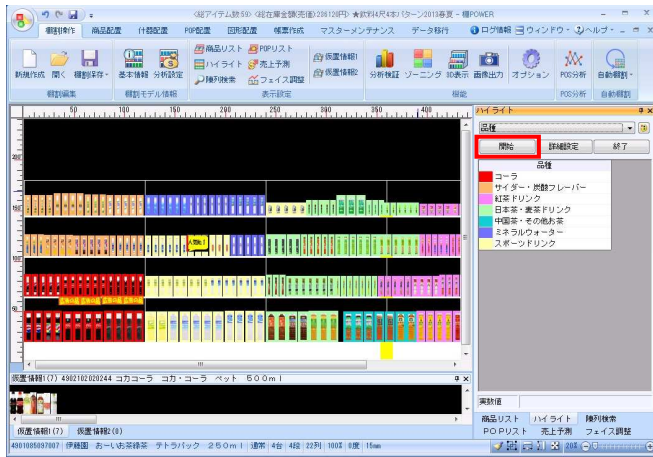
2. 「棚割操作」－「分析設定」を選択します。

「売上情報（分析）」を有効にして、紐づけたい売上情報を一覧から選択して「設定」をクリックします。



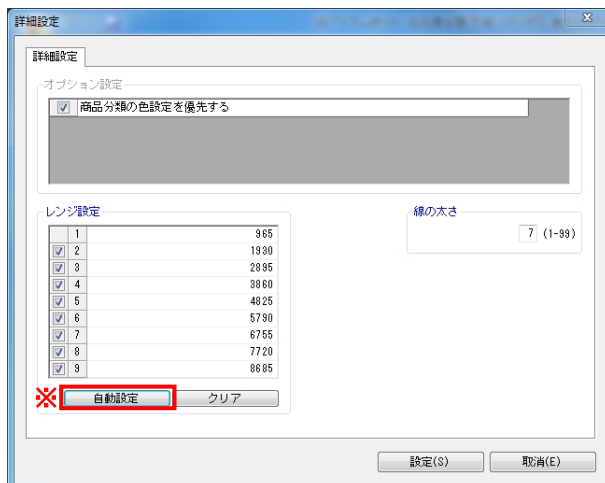
3. 「棚割操作」－「ハイライト」をクリックします。

棚割編集画面の右側にハイライト設定画面が表示されます。プルダウンメニューから確認したい項目を選択します。



4. 「開始」をクリックすると商品が色分けされます。

「終了」をクリックするまで、商品の陳列を変更した場合も自動で色分けされます。



5. 売上数量や売上金額など、数値を扱う項目を選択した場合はどれだけ区切るかの「レンジ設定」が「詳細設定」で可能です。また、線の太さも設定できます。

【商品分類の色設定を優先する】

有効にすると、商品分類で登録している色を反映します

【レンジ設定】

チェックボックスで色分けの範囲を設定します

1～9までのチェックボックスを利用して色分けの分割数を設定して、各行に数字を入力して色分けの範囲を決定します

※「自動調整」をクリックして色分け範囲を自動で算出させることも可能です

【線の太さ】

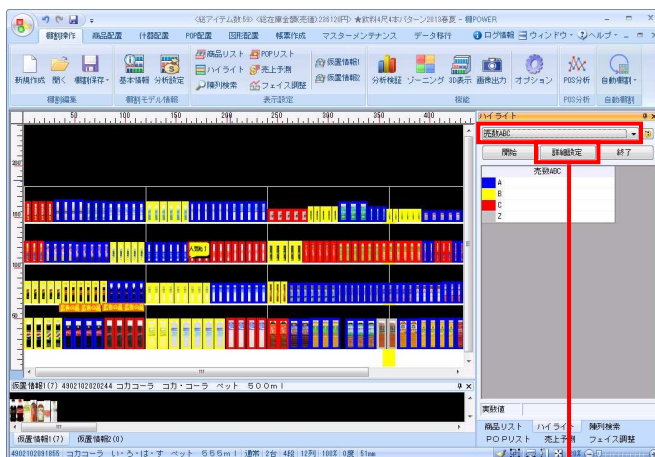
表示する色枠の太さを設定できます

6. 分析例①
「売上に応じた陳列スペースをとる」

分析項目を「売金ABC」にすると、売上金額のABCで色分けができます。

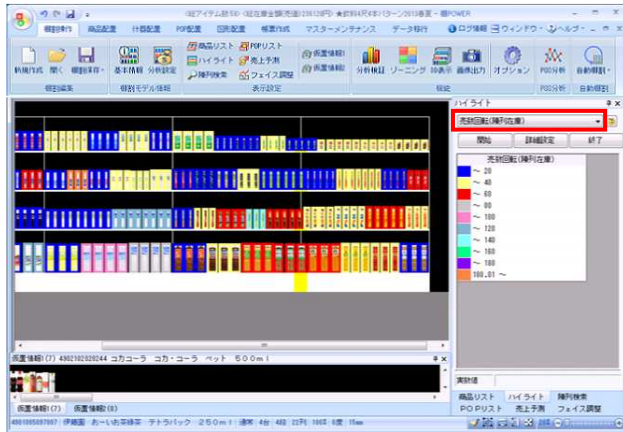
ゴールデンゾーンにAランク商品のフェイス数が少なく、Cランク商品のフェイス数が多い場合、スペース生産性の悪い棚割だと言えます。

売上とフェイス数のバランスの悪い商品がないか確認し、Cランク商品のフェイス数を削減、Aランク商品のフェイス数を増やすと同時に、陳列位置も検討する必要があります。

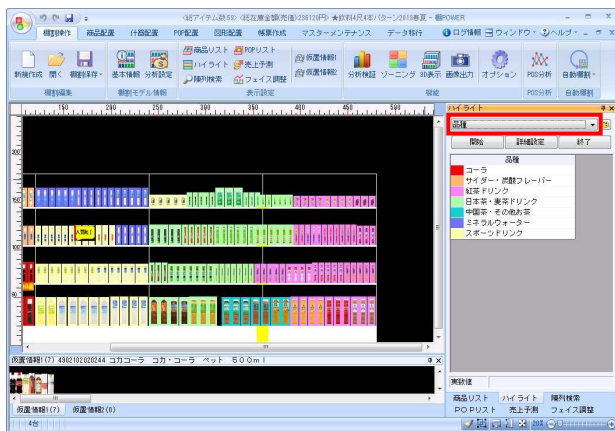


参考

- 分析項目「売数ABC（台内）」にすると、棚割全体ではなく、台ごとにABC分析を行なった結果を表示できます。
- 分析項目「売数ABC（段内）」にすると、段（棚板）ごとにABC分析を行なった結果を表示できます。
- 分類内でABC分析をする場合は「詳細設定」より、「選択分類内でABC分析を行う」を有効にし、分析をしたい分類を選択します。
- 「棚割操作」－「オプション」の「詳細設定(2)」にある売上情報を有効にすると商品画像上に売上を表示できます



売上情報を登録すると上記のような分析が可能です。登録していない場合でもハイライト分析が可能です。分析項目を「品種」などの分類にすることで、ゾーニングを確認し陳列の乱れを確認できます。



7. 分析例② 「商品の品出し作業の回数を揃える」

分析項目を「売数回転（陳列在庫）」にすると、売上数量に対する在庫の回転数で色分けできます。回転数が高いほど売上に貢献している商品と言えますが、欠品の可能性が高まり、商品の回転数に比例して発注や品出し作業も必要になります。反対に回転数が低い商品は過剰在庫となる恐れがあります。

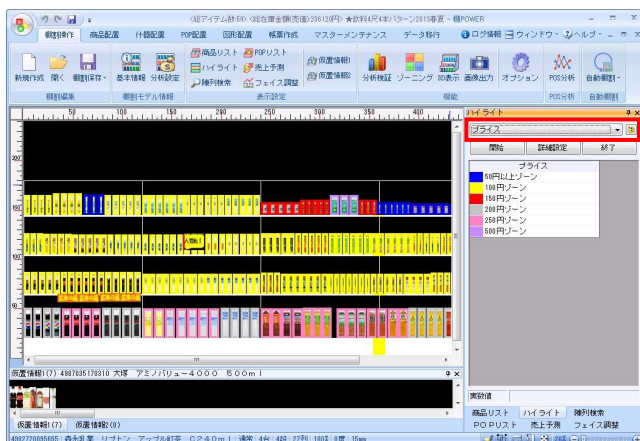
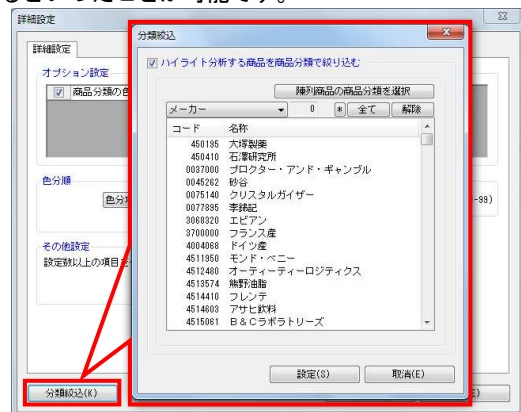
回転数の高低で商品の陳列ボリュームを検討し、回転数を揃えることで均一なペースで商品が減っていき、効率よく売場を維持することができます。

8. 分析例③ 「ゾーニングを整える」

売場に立ち寄ったお客様が「目的の商品を探しやすい」「他の商品と比較しやすい」売場を作るためには、ゾーニングを整える必要があります。分析項目を「品種」にすると、品種ごとに商品が色分けされます。同じ品種の商品を固めて陳列することで目的の商品が見つけやすくなります。

【参考】

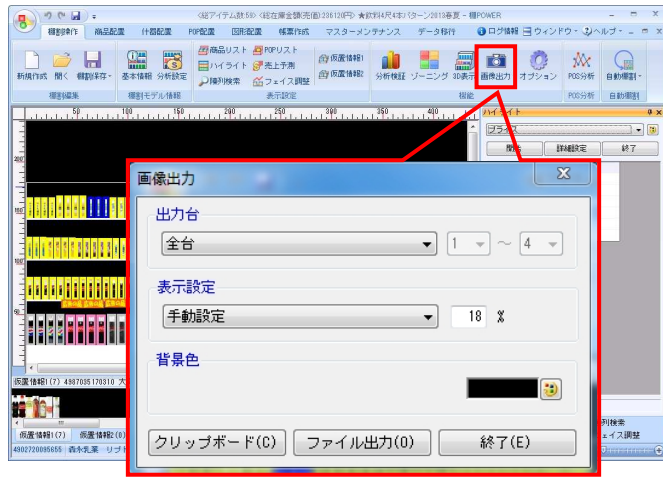
分類選択時は、[詳細設定] - [分類絞込] より、任意の分類（メーカーや品種など）にのみ色を付けて表示することも可能です。自社商品にだけ色を付ける、対象の品種にだけ色を付けるといったことが可能です。



また、分析項目を「プライス」にすると、商品が価格帯ごとに色分けされます。商品の価格帯のルール（左から右へ価格帯が上がっていく、など）を定めると他の商品との比較が容易になります。

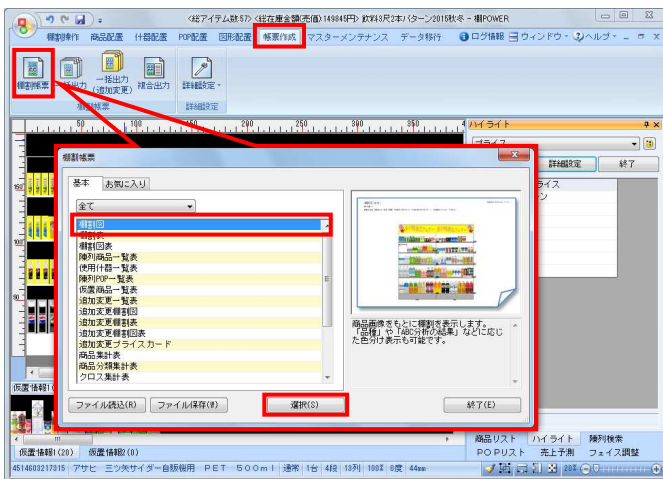
注意

分類での色分けを行なうには分類の登録と商品情報との紐づけが必要です。



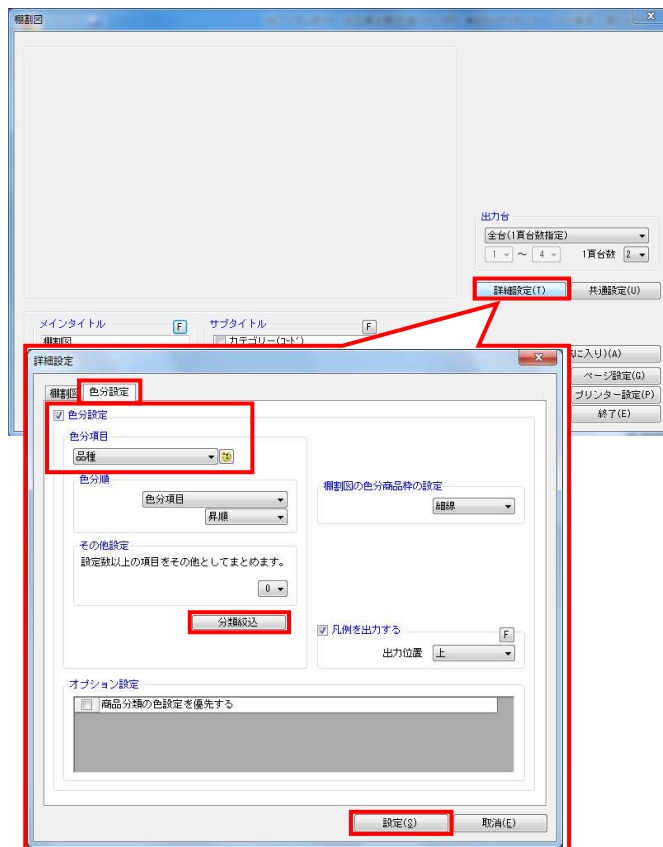
9. 色分けされた棚割モデルの編集画面を確認結果として出力することができます。

〔棚割操作〕－〔画像出力〕で棚割の編集画面をそのままクリップボードや画像ファイルとして出力が可能です。



10. 棚割図、棚割図表に色分けを反映させることもできます。

〔帳票作成〕－〔棚割帳票〕をクリックし、「棚割図」を選択します。



11. 〔詳細設定〕ボタンをクリックし、〔色分設定〕タブを選択します。

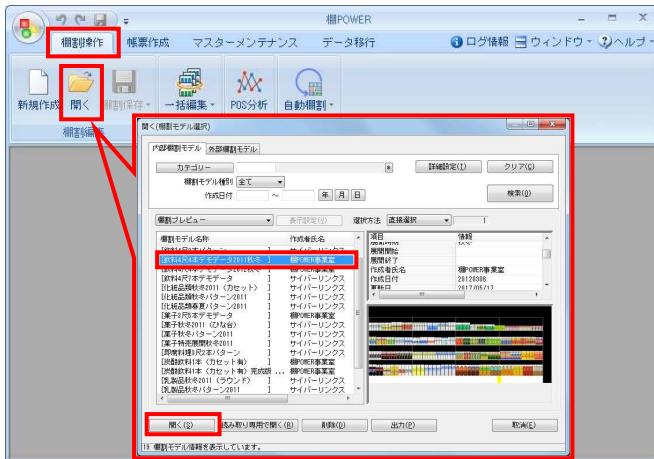
「色分設定」を有効にし、「色分項目」で確認をしたい項目を選択して〔設定〕をクリックします。

【参考】

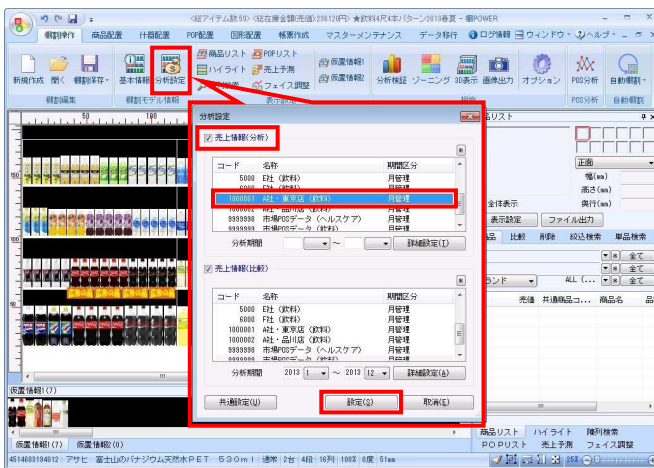
- ・ハイライトと同じく、分類選択時は〔分類絞込〕より、任意の分類（メーカー、品種など）のみに色を付けて表示することができます。自社商品にのみ色を付ける、対象の品種にのみ色を付けるといったことが可能です。（棚割表、棚割図表の場合も同じ手順で設定できます）
- ・〔棚割図〕タブのオプション設定より「商品上に売上を表示する」を有効にすると商品画像上に売上を表示できます（棚割図表の場合も同じ手順で設定できます）

■構成比率表

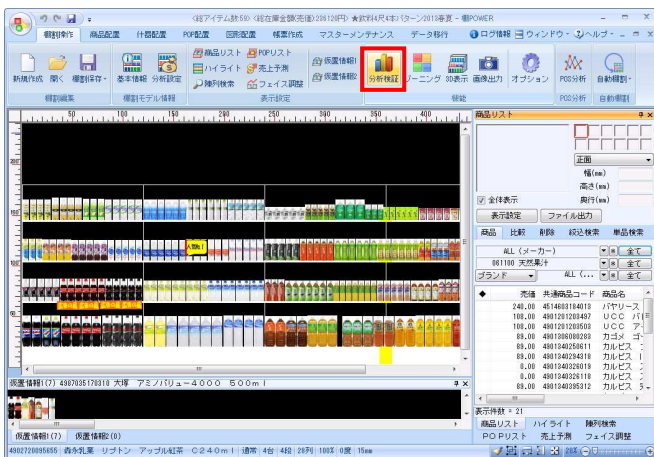
構成比率表では、メーカーや品種などの商品分類／階層分類単位で、陳列スペースや売上数量、売上金額、粗利の構成比をグラフ表示します。陳列スペースのボリュームが適正かどうか検討する場合に活用できます。



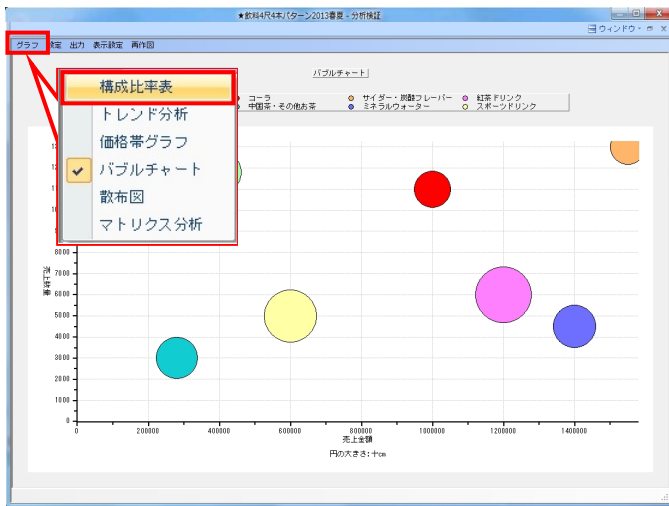
1. 「棚割操作」－「開く」より、分析したい棚割モデルを開きます。



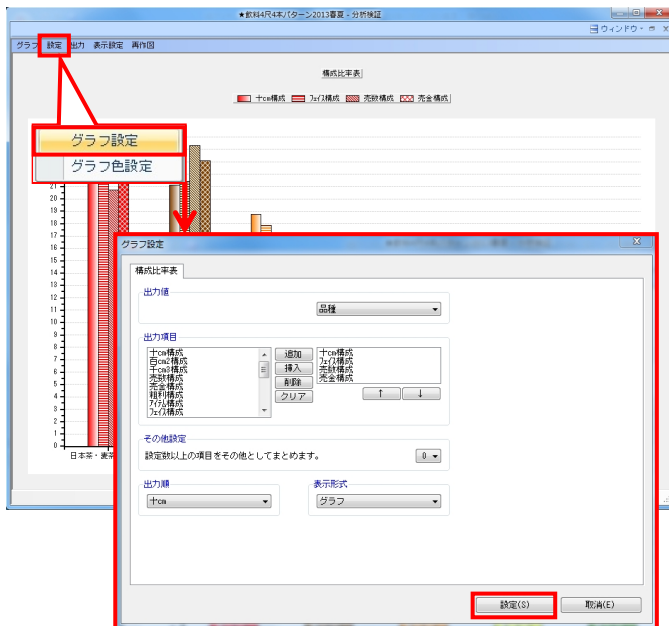
2. 「棚割操作」－「分析設定」を選択します。
「売上情報（分析）」を有効にして、紐づけたい売上情報を一覧から選択して「設定」をクリックします。



3. 「棚割操作」－「分析検証」をクリックします。

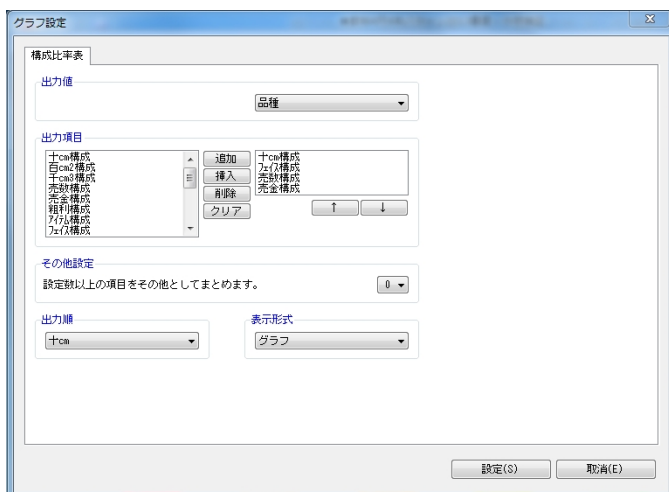


4. メニューバー「グラフ」より「構成比率表」を選択します。



5. 設定「グラフ設定」をクリックします。
グラフ設定画面より確認したい分類や出力項目の設定を行ない、[設定]をクリックします。

画面上部に凡例とグラフが表示されます。



6. グラフの基準とする品種や棒グラフで表示する項目などの設定が「グラフ設定」で可能です。

【出力値】

確認したい商品分類（または階層分類）を選択します

【出力項目】

グラフに表示したい項目を選択します

表示したい項目を選択し [追加] をクリック、または項目をダブルクリックすることで選択できます

棒グラフの出力項目の順番は [↑] [↓] で変更できます

【その他設定】

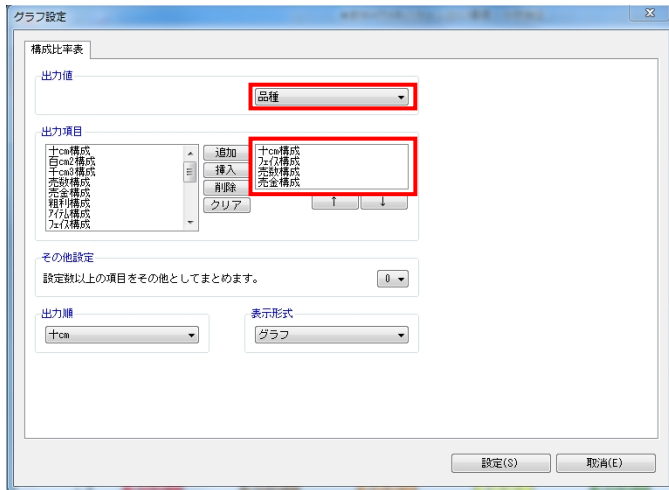
設定した数値以上の項目は「その他」としてまとめて表示されます

【出力順】

出力時のソート基準を選択します

【表示形式】

出力結果の表示形式で「グラフ」か「数値」を選択できます

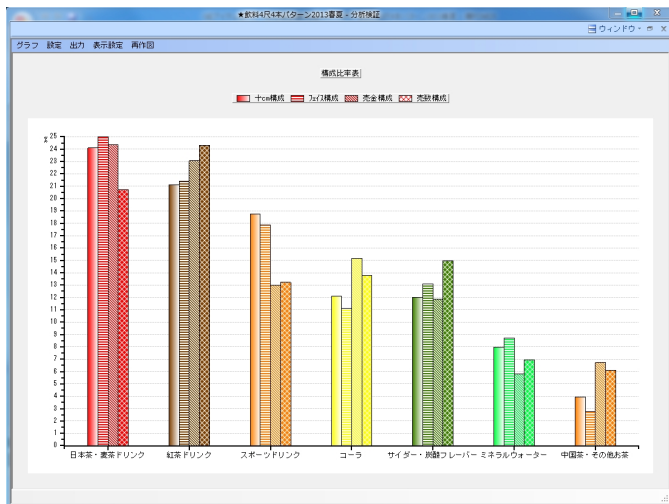


7. 分析例① 「陳列ボリュームと売上のバランスを取る」

フェイス数や10cm（陳列幅）などの陳列ボリュームの要素と、売上数量、売上金額といった販売結果の要素を比較することで、棚割の計画時と実際の販売結果にギャップがないか確認することができます。

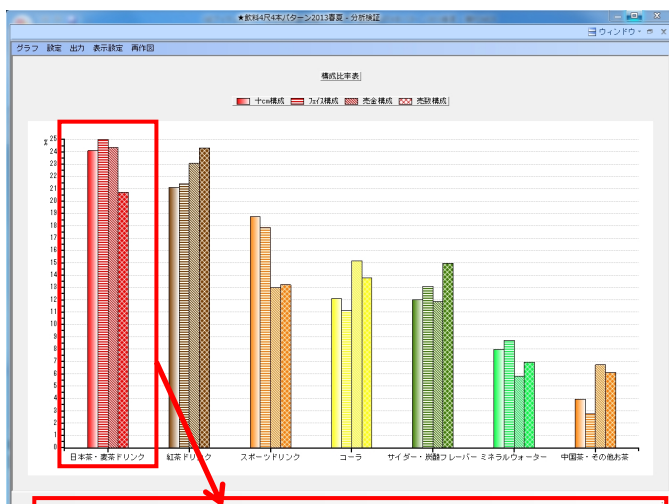
ここでは出力値を「品種」、出力項目を「10cm構成」「フェイス構成」「売金構成」「売数構成」と選択します。

- 【10cm】
棚内における商品のフェイス幅（陳列幅）
- 【100cm2】
棚内における商品のフェイス、積上を加味した面積
- 【1000cm3】
棚内における商品のフェイス、積上、陳列在庫を加味した体積



8. スペースやフェイスを取っているのに売上が上がっていない、逆にスペースは小さいのに売上が上がっている分類を確認できます。

陳列ボリュームを多く取っている品種でも、売上が少ないのであれば、他の品種に陳列スペースを割り振るといった検討もできます。
ただし、陳列の変更を考える際は単純に他の売上の多い品種にスペースを割り振るというだけではなく、価格や品揃えなど多角的に検討をする必要があります。



9. 活用例 A 「特定の分類の対象商品を確認する」

課題となる品種の棒グラフをクリックすると、選択した分類に含まれる商品を確認できます。

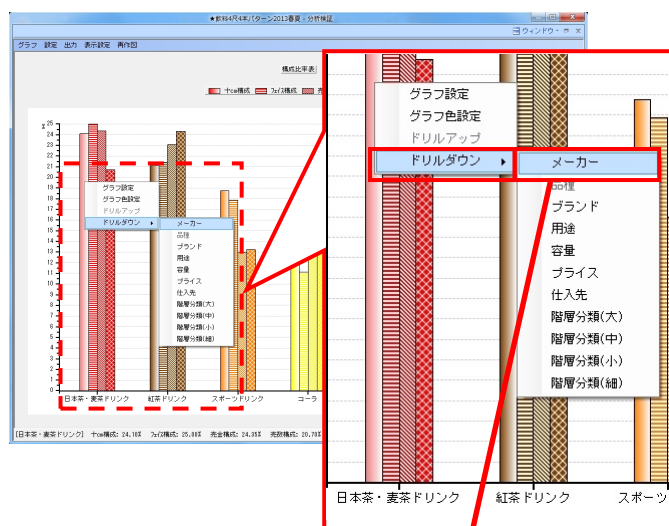
確認した商品を仮置情報へ陳列、またはファイルに出力できるので、フェイス数を増やしたい商品を仮置きに陳列する、フェイス数を減らす、またはカットしたい商品をExcelの一覧表で出力ということも可能です。

参考

- ・[陳列商品へ色付] の機能を使って、棚割に並んでいる任意の商品に色を付けることも可能です。
- ・[表示設定] より表示項目に「売数ABC(分類内)」や「売金ABC(分類内)」などを含めると分類内でのABC分析結果を確認できます。

選択商品一覧

No.	選択	共通商品コード	商品名	フェイス数	売上金額	比較売上金額	品種
1	<input checked="" type="checkbox"/>	430 108563 4316	伊藤園 おーいお茶 ペット 500ml	3	50183.00	7577835.00	062500
2	<input checked="" type="checkbox"/>	430 108563 4323	伊藤園 おーいお茶 ほろろ茶 500ml	5	19419.00	2331910.00	062500
3	<input checked="" type="checkbox"/>	430 108564 4414	伊藤園 突然さくらんぼ茶 2L	2	132790.00	20951290.00	062500
4	<input checked="" type="checkbox"/>	430 108566 4627	おーいお茶 焼きたての香り焙じ茶 ペット 2L	2	32445.00	4091985.00	062500
5	<input checked="" type="checkbox"/>	430 108568 7388	伊藤園 2つの楽しみ カチン緑茶 350ml	5	55748.00	8417848.00	062500
6	<input checked="" type="checkbox"/>	430 108569 7007	伊藤園 おーいお茶緑茶 テトラパック 250ml	6	38024.00	5438624.00	062500
7	<input checked="" type="checkbox"/>	430 130115 4019	花王 ヘルシア 緑茶 350ml	3	203542.00	30734842.00	062500
8	<input checked="" type="checkbox"/>	430 130116 4163	花王 ヘルシア 緑茶 1L	3	394568.00	59093468.00	062500
9	<input checked="" type="checkbox"/>	430 177711 8130	サントリー 緑茶 伊右衛門 2L	3	249014.00	37601114.00	062500
10	<input checked="" type="checkbox"/>	430 177711 8176	サントリー 緑茶 伊右衛門 手売り用 500ml	6	28725.00	4337475.00	062500
11	<input checked="" type="checkbox"/>	430 177721 7386	サントリー 緑茶 伊右衛門濃い手売り用 500ml	5	52582.00	7938882.00	062500
12	<input checked="" type="checkbox"/>	430 177722 4034	サントリー 伊右衛門玄米茶(手売り用) 500ml	6	19658.00	2968358.00	062500
13	<input checked="" type="checkbox"/>	430 210239 8919	コカコーラ 炭酸 PET 500ml	7	123373.00	18623923.00	062500
14	<input checked="" type="checkbox"/>	430 222036 3940	COOP 緑茶 500ml	7	213449.00	32239739.00	062500

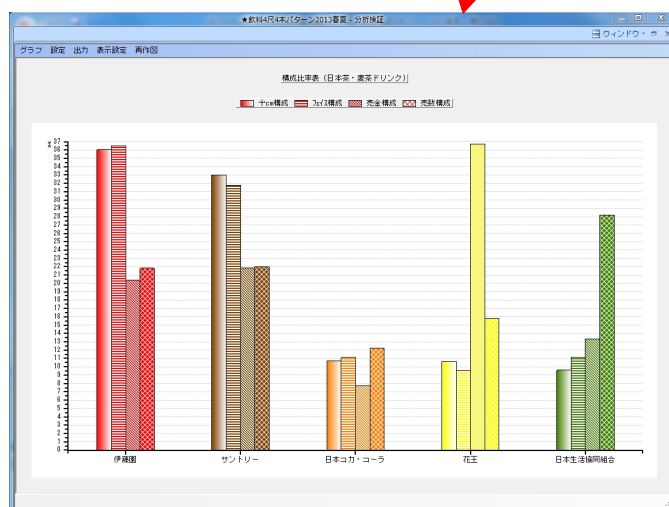


10. 活用例B
「特定の分類をドリルダウンし、異なる分類を切り口に確認する」

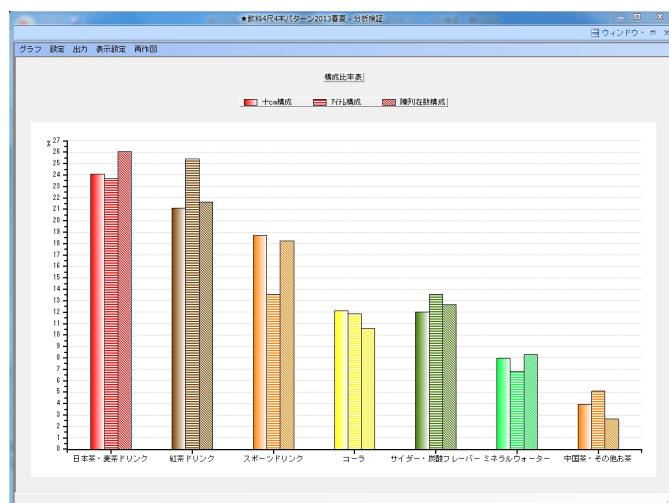
ドリルダウンすると更に細かく、別の視点を加えて確認できます。
確認したい分類の棒グラフの上で右クリックすると、メニューが表示されます。

「ドリルダウン」から、確認したい分類を選択します。たとえば「メーカー」を選択すると、売上の取れている品種の中でも特にどのメーカーの商品が売れているかなどの確認をすることができます。

複数の分類で商品を含んでいる場合は、「メーカー」のほか、「品種」-「容量」で確認するなど様々な切り口で検証できます。



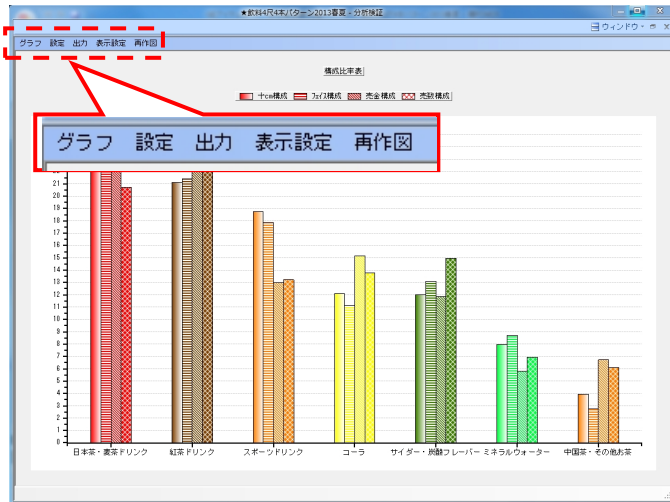
棒グラフ上で右クリックして「ドリルアップ」すると、元のグラフに戻ります。



11. 分析例②
「陳列商品の分類ごとに陳列スペース構成を確認する」

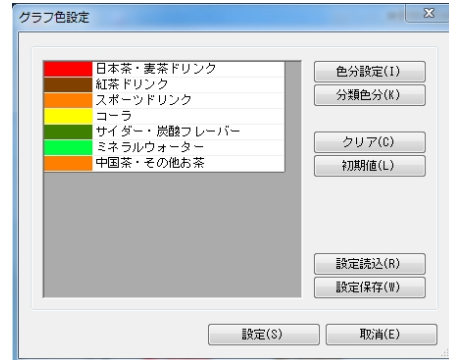
売上情報の登録がない場合は「+cm構成, 百cm2構成, 千cm3構成, アイテム構成, フェイス構成, 陳列在数構成」などで確認が可能です。

メーカーや品種、ブランドなどの登録している商品分類を使用して、分類ごとのスペース構成比やアイテム構成、フェイス構成を確認して検証ができます。



12. 分析検証機能のメニューでは分析したいグラフを選択する他にも、グラフの色の変更や表示しているグラフの出力、グラフ内の表示方法の変更などが可能です。

設定－「グラフ色設定」
棒グラフの色の変更などができます



出力－「クリップボード」
表示している分析検証の画面をクリップボードに保存します

出力－「ファイル」
表示している分析検証の画面を画像ファイルとして出力します
画像ファイルの形式はBMP, JPEG, EMFから選択できます

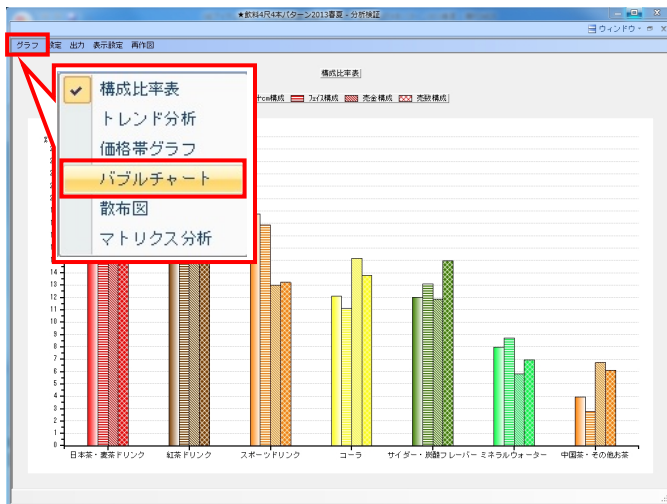
出力－「Excelグラフ」
表示している分析検証の画面をグラフにしてExcelで出力します

「表示設定」
グラフ内に棚割モデル名称や分析期間の表示、ラベルの表示などの設定ができます

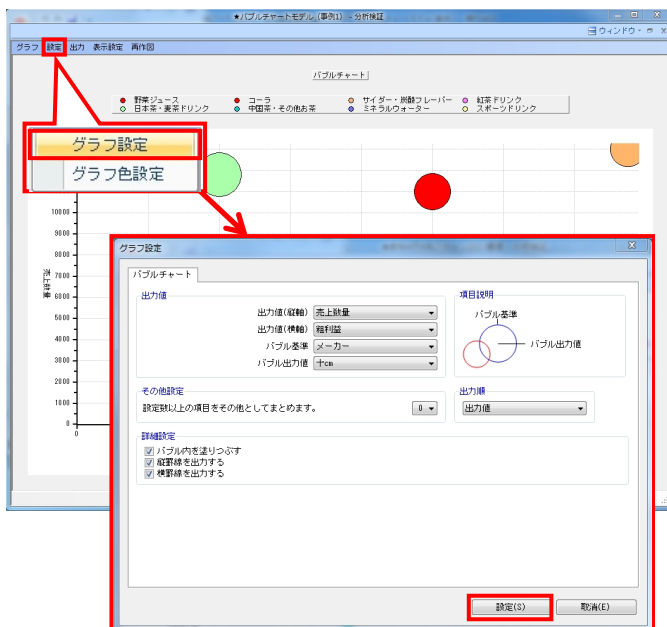
「再作図」
陳列や設定を変更した場合に最新の状態に再作図します

■バブルチャート

バブルチャートでは、メーカーや品種などの分類単位でバブルを構成し、「縦軸」「横軸」「バブルサイズ」の3つの要素で同時に検証が可能です。

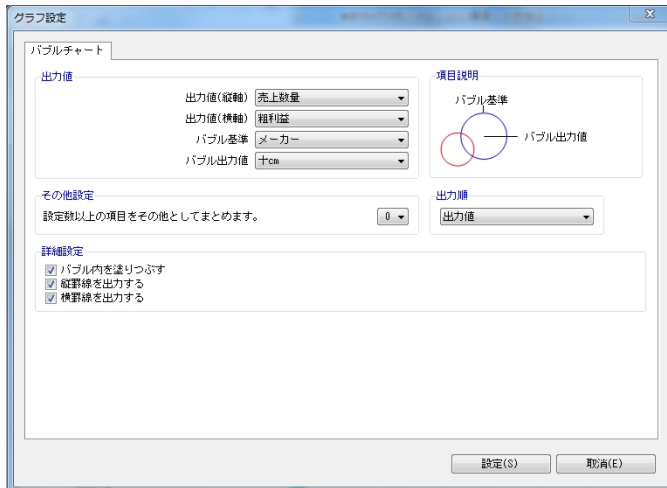


1. メニューバー「グラフ」より「バブルチャート」を選択します。



2. 設定「グラフ設定」をクリックします。
グラフ設定画面より確認したい分類や出力項目の設定を行ない、[設定]をクリックします。

画面上部に凡例とグラフが表示されます。



3. バブルの基準とする品種や縦軸、横軸で表示する項目などの設定が「グラフ設定」で可能です。

【出力値（縦軸）】
グラフの縦軸の基準を選択します

【出力値（横軸）】
グラフの横軸の基準を選択します

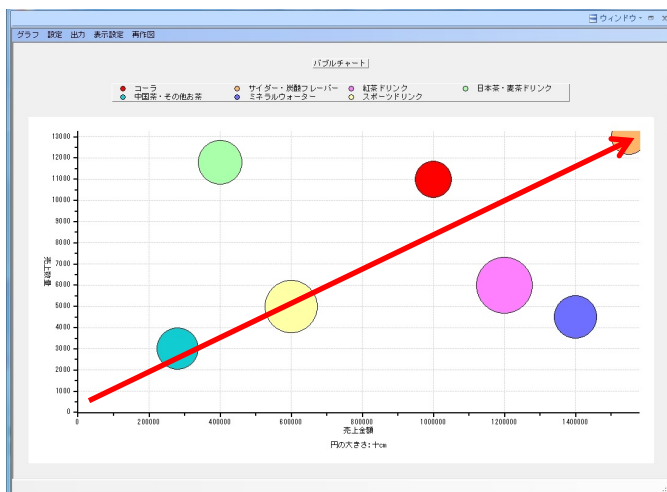
【バブル基準】
円の色分けの基準とする分類を選択します

【バブル出力値】
円の大きさの基準とする項目を選択します

「詳細設定」
【バブル内を塗りつぶす】
選択すると、色分けの色で円内を塗りつぶします

【縦罫線を出力する】
選択すると、縦軸に罫線を表示します

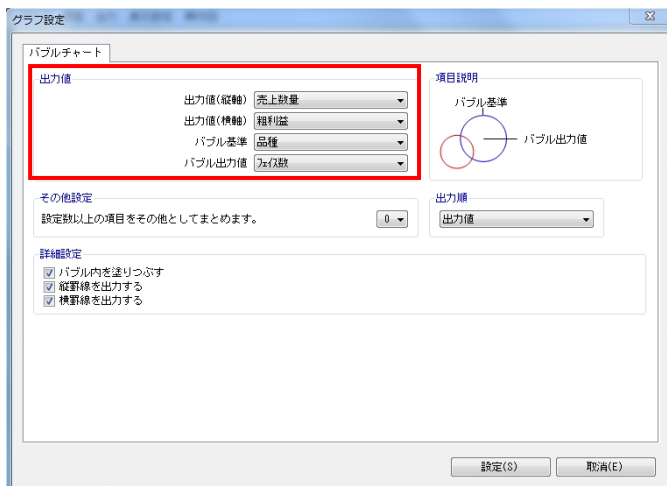
【横罫線を出力する】
選択すると、横軸に罫線を表示します



4. 分析例①
「売上と陳列ボリュームを比較してバランスを確認する」

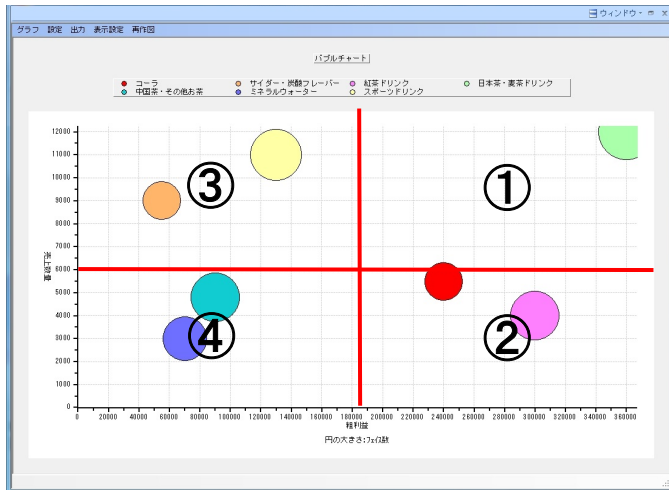
たとえば「縦軸：売上数量」「横軸：売上金額」「バブル基準：品種」「バブル出力値（サイズ）：+1cm」と設定すると、円の大きさが陳列スペースとなり、その品種がどれだけのスペースを取っているか、それに対して売上数量、金額が適正なのかをバブルの位置から確認できます。

この場合、右上に行くほど売上が多いため、右上に行くほど円が大きくなるのが理想です。



5. 分析例②
「各分類の販売戦略を整理、検証する」

「縦軸：売上数量」、「横軸：粗利益」、「バブル基準：品種」、「バブル出力値（サイズ）：フェイス数」と設定します。



6. ここでは縦軸を「購買者からの支持」、横軸を「小売店への貢献度」と定義します。
縦軸と横軸に中央線を引くと、バブルの位置と大きさと各分類の位置付けを確認することができます。

①：「優良」商品群

小売店への貢献度、客寄せ効果がともに高く、売上の柱となっている商品群と言えるため、今後も継続して陳列します。
円が小さければ陳列数を増やす必要があります。

②：「育て筋」商品群

小売店への貢献度は高いが客寄せ効果が十分ではない、つまり今後売上数量の向上を図ることで「優良」商品群へ移行が期待できる商品群と言えます。
陳列位置、フェイス数を検討し、販促物を使用するなど売上数量を伸ばす取り組みが必要です。

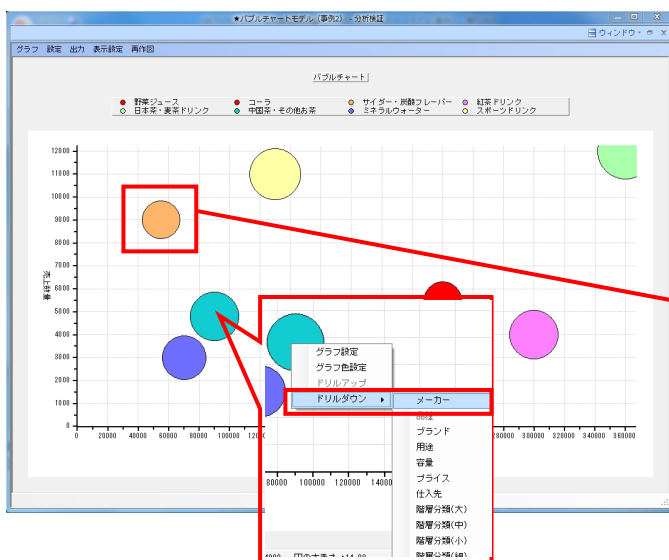
③：「見せ筋」商品群

客寄せ効果は十分だが小売店への貢献度は十分ではない、粗利益の低い商品群と言えます。
客寄せ効果としての役割が大きいいため今後も継続して陳列し、この商品群の近くに売りたい商品を陳列すると効果的です。

④：「改善」商品群

小売店への貢献度、客寄せ効果ともに低い、改善が必要な商品群と言えます。
この商品群で円が大きいものに関しては基本的にはフェイス数の削減やカットの対象ですが、同じ分類内でも売れている商品や定番商品が含まれている可能性があるため、慎重に検討する必要があります。

各商品群に対して今後の販売計画を立案、実施、検証、改善というサイクルで継続的な取り組みが必要です。



7. バブルをクリックすると該当商品を確認でき、右クリックするとドリルダウンもできるため、拡販候補商品やカット商品の検討に使用可能です。

選択商品一覧

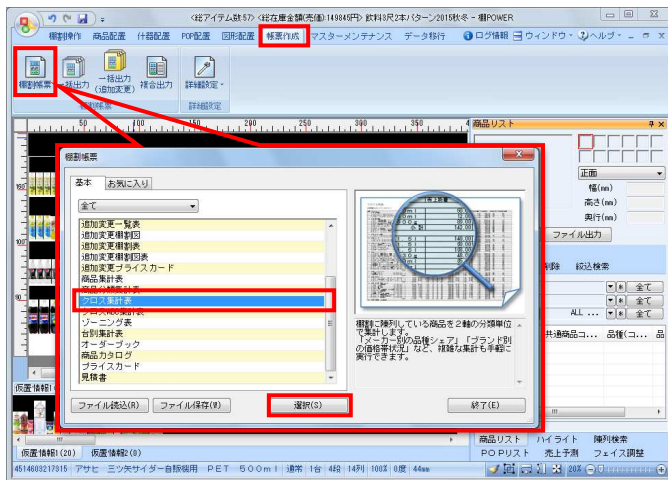
No.	選択	共通商品コード	商品名	フェイス数	売上金額	比較売上金額	品種
1	◆	4514002217315	アサヒ ミツ矢サイダー 各種専用 PET 500ml	5	15,295.00	2301,015.00	062100 セ
2	◆	456151629476	サッポロ かぶ飲みメロンクリームソーダ 500ml	3	9,529.00	1439,984.00	062100 セ
3	◆	4901348146426	カルピス カルピスソーダ ペット 500ml	5	5,083.00	755,488.00	062100 セ
4	◆	4901777209152	サントリー C. C. レモンゼロ ペット 500ml	3	1,428.00	215,088.00	062100 セ
5	◆	4902102076395	ファンタ オレンジ PET 500ml	4	6,770.00	1022,300.00	062100 セ
6	◆	4902102076578	ファンタ グレープ PET 500ml	5	15,120.00	2283,578.00	062100 セ
7	◆	4902102077354	カナダドライ ジンジャーエール 500ml	4	10,928.00	1650,418.00	062100 セ
8	◆	4903411045335	キリン 大人のキリンレモン PET 500ml	4	3,954.00	502,059.00	062100 セ

「陳列商品へ色付」の機能を使って、棚割上に並んでいる任意の商品に色を付けることも可能です。

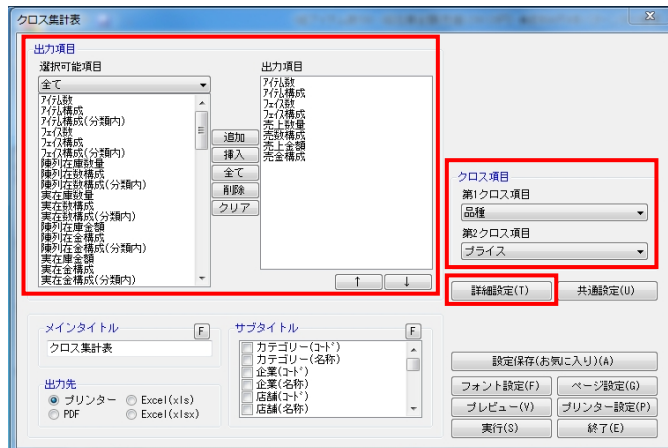
棚割編集画面や分析検証画面で分析結果を確認するだけでなく、分析した結果を帳票として出力し、「明細化」することもできます。特定商品のメーカー別シェアやブランドごとの価格帯構成など複雑な分析も手軽に行なえます。

■クロス集計表

クロス集計表では棚割モデルに陳列している商品に、2軸の分類を掛け合わせて分析した結果を一覧表形式で作成できます。棚割全体でみた時の分析結果と、選択した分類内でみた時の分析結果を同時に確認可能です。



1. 「帳票作成」－「棚割帳票」より「クロス集計表」を選択して、「選択」をクリックします。

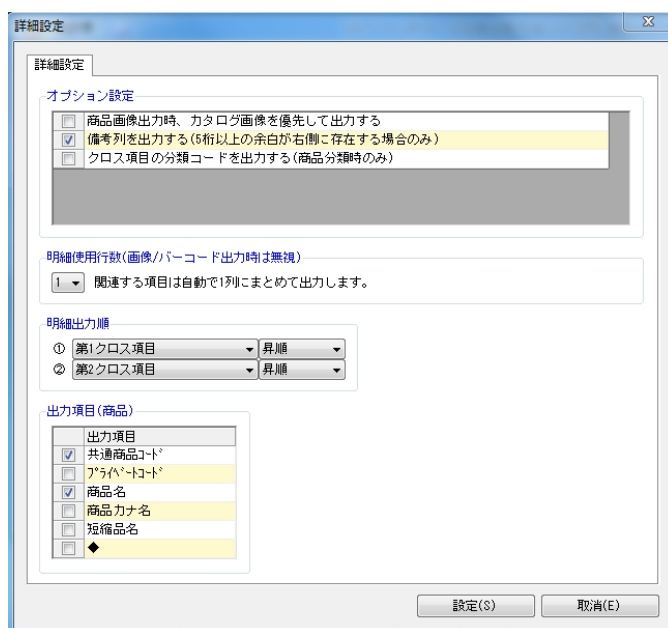


2. 「クロス項目」で第1クロス項目、第2クロス項目を選択します。

「選択可能項目」より、出力したい項目を選択して「追加」をクリック、またはキーボードのShiftキーやCtrlキーを使って複数選択も可能です。

出力したい項目をダブルクリックでも追加できます。出力項目の順番は「↑」「↓」で変更できます。

その他の細かい設定は「詳細設定」から行ないます。



3. 「詳細設定」で設定できる内容は下記です。

【商品画像出力時、カタログ画像を優先して出力する】
有効にすると、カタログ画像の登録がある場合はカタログ画像を出力します

【クロス項目の分類コードを出力する（商品分類時のみ）】
有効にすると、クロス項目に分類コードを表示します

【明細使用行数（画像/バーコード出力時は無視）】
印刷時に1つの明細を出力するために使用する行数を選択します

【明細出力順】
明細の出力順の基準となる項目、「昇順」「降順」をそれぞれ選択できます

【出力項目（商品）】
第2クロス項目で「商品」を選択した場合、表示したい項目を選択できます

4. たとえば「品種」ごとの「容量」の貢献度を確認する場合は、「第1クロス項目」に品種、「第2クロス項目」に容量を選択します。

出力項目に「アイテム数」「フェイス数」「売上金額」「売上数量」「売数構成」「売数構成(分類内)」などを設定します。

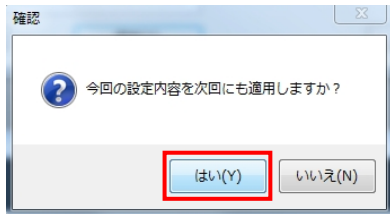
「プレビュー」をクリックして帳票を確認します。

5. そうすると棚割モデル全体で購買者から支持されている「品種」や「容量」と同時に、各「品種」内で特によい「容量」が支持されているのかを確認できるため、品揃えの検討に使用できます。

6. 第2クロス項目に「商品」を選択すると、各分類に何の商品があるのか分かると同時に、モデル全体と分類で、それぞれABC分析の結果や構成比を出力できます。

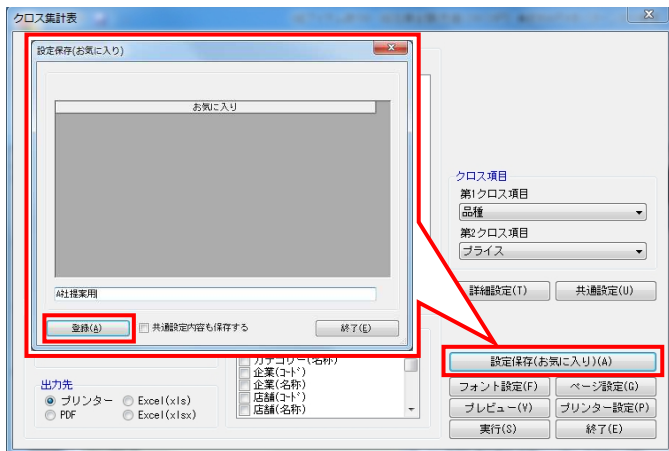
「クロスABC(数/金)」はモデル全体、「クロスABC(数/金)(分類内)」は分類内での結果となるため、モデル全体ではCランクの商品でも分類内ではAランクといった発見もできます。

7. 「出力先」を選択して、「実行」をクリックすると印刷、ファイル出力が可能です。



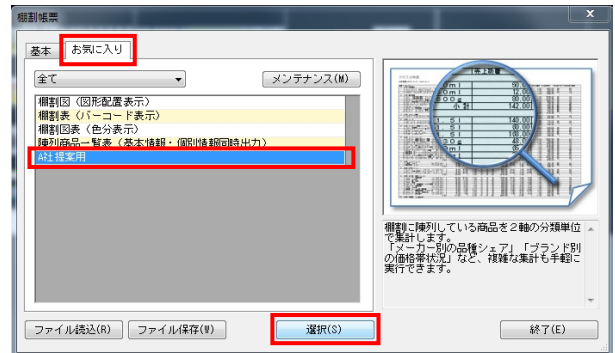
8. 出力後、[×] または [終了] で閉じる際、メッセージが表示されます。

「はい」を選択すると、次回も同じ設定で出力することができます。



9. 提案先によって設定を分けたい場合は「設定保存（お気に入り）」で複数の設定の登録が可能です。

登録した設定を使用する場合は「帳票作成」－「棚割帳票」画面の「お気に入り」タブから選択します。



10. これで「Ⅲ章 棚割分析1～スペースの有効活用を考える分析機能～」は以上です。
次章では商品の品揃えの検討に使用できる分析について説明していきます。